



R06.03.13/袋井市役所
第9回ふくろい産業イノベーション推進協議会総会

ふくろい産業イノベーションセンター ニュースレター Vol.35

発行日：令和6年3月22日（金）

発行者：ふくろい産業イノベーションセンター事務局

令和6年度の事業計画・予算(案)が「承認」 ～第9回「ふくろい産業イノベーション推進協議会 総会」で協議～

3月13日、本センターの設置主体である「ふくろい産業イノベーション推進協議会」第9回総会が開催され、本センター令和5年度取組実績の報告を行うとともに、令和6年度事業計画及び予算(案)について協議いただきました。各委員からは、本協議会・センターの事業実績や取組の方向性等の様々な点で、多くの意見が出されたほか、協議事項(令和6年度事業計画・予算)について、全会一致で「承認」を得ることができました。

次年度は、「地域課題解決を通じた価値創出(ビジネス機会創出)の仕組み構築に“全集中”で取り組む」を取組方針に掲げ、以下の3点を軸として、各種事業を展開してまいります。

【取組の考え方(3つの柱)】

良質な
ネットワークの
拡充&情報収集

積極的な
チャレンジに向けた
機運醸成

現場課題を通じた
ビジネス機会創出の
仕組みづくり

各委員意見要旨

●地域内企業と地域外企業・機関等のマッチングを強化すべき

本協議会のミッションである「稼ぐチカラのある中小企業と新産業の創出」達成には、地域内企業の技術革新に向けた支援を行っていくことに加え、素晴らしい技術や知見、あるいは商材を持つ地域外のスタートアップ企業をはじめ、産業支援機関や施設、公設試等と地域内の企業が積極的に交わり、連携していくよう、取組を進めていくことが重要ではないか。

●「企業の稼ぐチカラ」を高めていくには

「企業の稼ぐチカラ」を高めていく方法としては、①技術革新によるコストダウンや大量生産、②課題を持つ方と密接に結びつき、潜在的なニーズを掘り起こして付加価値を創出する、という2つのパターンがあり、特に②では“マーケットイン”で取り組むことが肝要。この場合、中小企業単独では負担が大きいため、“知財戦略”をしっかりと持った上で、大企業と結びついていくのも一つの考え方。

●地域全体の活性化に向けて

地域内にあるニーズやリソースをいかに結び付け、あるいは好事例を横展開していくか。

このつながりや取組が広がってコミュニティが生まれ、地域全体が活性化していく、という流れが基本であり、その点に十分留意して協議会やセンターは事業を展開していくことが大切。

●本協議会・センターが注力すべきこと

「地域の稼ぐチカラ」をより高めていくためには、産学官金が、それぞれの持つ情報や課題を確実に共有し、取組の方向性を合わせていくことが必要。協議会でそのような仕組みを設けてはどうか。

また、本協議会・センターの得意とするところは、様々な主体が交わる「場・機会」を積極的に設けていくことであり、その強みを十分に生かして取組を進めていただきたい。

●危機感の醸成と挑戦への積極的な支援を

今後、益々厳しい状況となっていくことが見込まれる産業分野に対し、しっかりとアプローチを行い、事業者には「危機感」を持っていただけるよう、取組を進めていただきたい。

また、このような「将来的な課題」を抱える業界の中でも、「チャレンジ」への意欲がある事業者を積極的に様々なニーズやリソースと結びつけることで、新たな展開につなげていければ素晴らしい。

協議会委員一覧（令和6年3月13日現在）※敬称略・順不同

協議会役職	所属	所属役職	氏名
会長・委員	袋井市	市長	大場規之
副会長・委員	静岡理科大学	学長	木村雅和
委員	袋井商工会議所	会頭	豊田浩子
委員	浅羽町商工会	会長	川上政年
委員	株式会社静岡銀行	袋井支店長	袴田幸弘
監事・委員	浜松磐田信用金庫	袋井中央支店長	伊藤光寿
委員	島田掛川信用金庫	地方創生部長	鈴木康司
委員	ふくろい産業イノベーションセンター	センター長	小笠原敦

お問い合わせ・相談窓口 **ふくろい産業イノベーションセンター**

〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2（静岡理科大学 やらまいか創造工学センター3階）
TEL:0538-45-0136（直通）／FAX:0538-45-0110／E-mail:shakai@sist.ac.jp